

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971200365		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里		
所在地	栃木県那須塩原市鍋掛1416-3		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人の協力病院である黒磯病院との「医療連携体制」の下、入居者様の日々の健康管理は勿論のこと、体調不良の早期発見、早期治療、又、入院後の早期退院等にも向け取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、法人母体である医療機関と緊密に医療連携が図られ、医療面でのバックアップ体制が充実していることから、利用者・家族等の安心、安全につながっている。利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など、それぞれのペースを大切にすることに努め、家族や地域のボランティアの力を借りながら利用者がより良く暮らせる支援に力を入れている。管理者はじめ全職員が、家庭的で温かな雰囲気を大切にした支援を行うと同時に、共に「幸せだ」と思えるよう喜怒哀楽を共有しながら信頼関係を築いている。また、開所時から続けられている職員手作りの「あぐり通信」は利用者の笑顔のあふれた物になっており、家族の楽しみの一つとなっている。敷地内の自然環境もさることながら、周辺には観光スポットも多くあり、利用者や職員の外出の機会を得られる恵まれた環境となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(台所にも)に運営理念を提示し目に見える状況の中、入居者様やご家族様との係わりに取り組んでいます。	一人ひとりの思いや願い、様々な力を引き出すことを重視し、事業所を利用しながらも家族とのふれあいを大切にしていける理念を掲げている。利用者の重度化に伴って、理念が現状に合っているか全職員がケアを振り返り、共に「幸せだ」と思える瞬間を得られるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様同伴による近隣スーパーへの買出しにて店員との馴染みは勿論の事、「運営推進会議」への参加頂いたり、又、夏祭りには、地域の婦人会、おはやしグループ等の参加もあり、交流を深めている。	自治会に加入し、法人主催の夏祭りには近隣住民の多数の参加があり、交流を深めている。特別な行事だけではなく、民生委員によるボランティア、中学生の総合学習の受け入れ、買い物等による近隣スーパーとの馴染みの関係作りなど、利用者並びに事業所が地域とつながりながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「運営推進会議」の中で、認知症への理解や支援方法を伝えたり、地元の方々が見学にて在宅介護の相談に来る際は、良く話を聞いた上で、認知症に関するアドバイスや、頑張り過ぎないようにことも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、行政、地域包括支援の職員、市議会議員、民生委員、又、議題により駐在さんや消防署員の参加ある中、毎月の定例会資料を配布し遠慮のない活発なご意見、ご指導等頂いている。	2か月に1回開催される運営推進会議は、定例会議や認知症に関するミニ学習会の資料を基に、具体的な事例を取り上げ、活発な意見交換の場となっている。また、評価結果についても会議にて報告し、現状を明らかにすることによりサービスの質の確保を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「運営推進会議」や、市内の「地域密着型サービス事業者連絡協議会」等においても顔を合わせており、ホームへの理解と共に、日頃より相談事やアドバイスも頂いております。	市町村担当者とは、運営推進会議や地域密着型サービス事業者連絡協議会等において積極的な情報提供と共有を図っている。日常的にも事業所からの相談事項に対応してもらったり、地域密着型サービスの利用状況等も随時報告があり、協働関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を設置し、毎月の定例会の中での話し合いと確認の下、全職員にて身体拘束のないケアに取り組んでいます。	法人全体で「身体拘束廃止委員会」を実施しており、定例会において管理者および全ての職員の共有意識を図っている。言葉による拘束を日々確認したり、利用者の予測されるリスクに対応しながら玄関施錠のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を設置し、毎月の定例会の中で毎回必ず話し合うなど、全員での周知に心掛けています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、既に「あすてらす」利用の入居者様がございましたので、職員の理解あり。と、同時に、今後も必要であれば支援の方向でいます。又、法人内での「学習会」でも取り上げ、全職員で理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に、重要事項等の説明は勿論のこと、ホームでの生活に関する不安や質問等にも答えるなど、時間をかけ、納得して頂けるよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に関しては、日々の何気ない会話の中から、又、ご家族様に関しては、毎月の面会時や交替で参加頂いている「運営推進会議」の中で、遠慮のない意見の下、運営に反映させています。	利用者本人からは、率直な意見や要望を出してもらえるような雰囲気づくりに努めている。また、家族からは毎月の利用料金の支払い時や運営推進会議において、事業所での様子を具体的に伝えることで、意見等を気軽に伝えられるような機会をつくり、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施中の定例会等の中で、介護現場の確認や意見交換等行っている。	管理者は、職員間の連携を図るため、定例会や日誌等で、現場職員からの意見や提案、情報等をしっかりと取り入れ、一緒に話し合いながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとり、責任ある仕事をしていく中、法人として、学習会(学びの場)や、又、職員旅行(海外もあり)も実施しており、各自が働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修への参加や、毎月、実施中の法人内[合同学習会]、又、日々の介護現場においても、職員一人ひとりが知識を身に付けられるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H20年度「那須塩原市地域密着型サービス事業者連絡協議会」が発足し、職員も交替で参加、他事業者との交流にて、共通の悩みを話し合ったり、サービスの質の向上にもつなげています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前調査として、ご家族や担当ケアマネからの情報提供や、本人の様子観察等行った上での入所となり、又、入所後も、日々、職員の気づきを記録、確認しつつ本人との係わりや把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みでの来所時や入所の際に、じっくりと時間をかけ、説明や質問等に答えることから始まる。又、毎月の面会の際にも、本人の様子伝えつつ信頼関係にも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や来所にて相談を受けた際は、先ず、ご本人の状況確認と同時に、ご家族への労をねぎらう言葉も添えながら、アドバイスを含めた話し合いをさせて頂き、安心につながるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のまだ出来る事、出来ない事等を把握した中で、手伝って頂いたときには「有難うございます」など必ず感謝の言葉伝えたり、人生の先輩として、昔の行事食や風習なども教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への説明の中で、入所後も本人と家族との係わり(絆)がどんなに大事なものであるか。又、その上、施設と家族が、本人の情報を共有しながら支えていく必要があることも伝えつつ係わらせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、必ず身内の面会お願いしている。と共に、入居者様の甥っ子さんによる”手品”のボランティアや、津軽三味線の生演奏、毎月の床屋さん、3ヶ月に1度の”民話の語り部”等の支援継続中。	利用者が、来所してくれる知人を認識できなくなっても、その時その時の利用者の思いを受け入れ楽しく会話ができるよう支援している。また、利用者の愛読書等も家族に依頼し、馴染みの物を継続できるように心配りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの能力と入居者間関係をふまえた上で、職員が仲立ちとなり、支えられるよう努めています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	[医療行為]必須の状況にて、やむなく退所せざるを得なくなった場合には、同法人の特養への紹介や希望があれば、その申し込みの場にも同席し、ご家族が安心できるよう係わらせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる入居者様に関しては、その思いを大切にくみ取り、又、意思表示が困難な場合においても、ご家族との話し合いや、本人のこれまでの思い等を考慮するなど心掛けています。	アセスメントや日常の会話の中で、一人ひとりの思いや意向に関心をはらい把握するよう努めている。思いをとらえにくい利用者についても家族からの情報、気づき、アイデアをもとに話し合い、その人らしい支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際ご家族に、今後係わっていく上で、これまでの生活ぶりや”人”となりを知る必要性を伝えた上で、できるだけ情報の提供を頂いたり、又、毎月の面会の際にも会話の場をもつよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の目配りや様子観察の中、一人ひとりの状況や、本人の発した”一言”などにも耳を傾けつつ、気づき場面の記録に心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの「施設に望む事」は、入所時や毎月の面会の際に確認するよう心掛けています。又、職員間でも「担当者会議」や、日々の気づきの記録を参考にしながらの作成を行っている。	本人や家族の意向を確認した上で、医療連携を図りながら記録をもとに、日々の関わりの中で出される職員の気づき等を反映させた介護計画を作成している。設定期間は3か月となっているが、本人の変化や家族の要望に応じて柔軟かつ臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の係わりの中での気づきや、状況の変化等については、ユニット日誌や個人ケースに詳細に記載し、出勤の際に必ず確認することで、情報の共有図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「居宅療養管理指導」や「医療連携体制」等の中、日々、健康管理や急変時の対応に努めている。又、かかりつけ医への通院介助の対応も実施中。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のご協力の下、唄や踊り、語り部、手品、それに、去年の7月～陶芸教室も開き、箸おき、入居者全員の手形やお地藏さんも作成済み。粘土に触れている時の表情は「子供のように目がキラキラ・・・」		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療連携体制」の下、看護師によるバイタルチェック、早期発見、早期治療と共に、かかりつけ医への受診(通院)支援も施設対応にて実施中。	契約時に法人母体である協力医療機関の説明をし、本人・家族の同意と納得の上で受診をしてもらい、管理者が通院介助を行っている。医療連携体制のもと、家族、職員間で日々の健康管理や医療面の情報共有ができています。また、訪問歯科医の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携体制」にて、顔馴染みの看護師による日常の健康管理できており、入居者の方々も、皆楽しみにされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療行為の必要性がなくなった時点にて、ホームでの受け入れ”OK”の部分伝えながら、病院との情報交換や洗濯物を取りに行きながら、本人の状況把握も行っていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H19年5月1日からの「医療連携体制」開始と共に、ご家族への説明と同時に、同意書の作成にも至っており、かかりつけ医との連携、共有も図れています。	重度化した利用者の家族の希望と職員の連携により看取りを行ったことから、今後も終末期における対応について医療連携を図り、関係者等が同意書のもとに、方針や具体的内容を話し合い、統一した考えにより支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変時の緊急対応マニュアル」の掲示と共に、法人内で毎月実施の「学習会」でも、看護師指導の下、「急変時の対応」の勉強を行っている。又、急変や事故発生時には、両ユニット連携し合い対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置や水、食料の備蓄も行う中、7月と11月の年2回、消防署の立会いや隣接施設の協力の下「避難訓練」実施。11月では、一人ずつ実際にスプリンクラーの元栓を回し、水の止め方も体験済み。	消防署指導のもと、深夜想定も取り入れ年2回の避難訓練を行っている。前回の評価結果をふまえ、全職員が毎月の定例会においてスプリンクラーの使用方法を重ねて習得し、昼夜を問わず利用者の安全、安心な誘導体制を整えている。	利用者の安全や地域との協力体制を図るため、消防署立会いの下近隣住民と共に消火器やAEDを使用した実際の訓練を事業所独自で開催していくことに期待したい。

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その人らしさを重んじる中、人生の先輩として、プライドを傷つけたり、又、他の方々の前で恥をかかせることのないよう、職員間で注意し合い係わらせて頂いている。(記録等への配慮にも心掛けている)	管理者の指導により、徹底した接遇に配慮したケアに努めている。利用者に対しては常に尊厳を持って接しており、馴れ合いからくる言葉づかいや記録の表現にも注意を払い、職員間でも確認し合っている。広報誌の写真の掲載についても同意をもらったり、書類の保管も事務所内で適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力を把握の上、入浴時の着替え等に関しても、最初から職員が手を出すのではなく、本人と一緒に、又は、後から、足りないものを本人に気づかれぬよう、そっと補充することもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の出来る事(読書、おしぼり丸め、広告でのゴミ入れ折り、洗濯物たたみ)等や、職員も一緒に懐メロを歌ったり、日々の何気ないおしゃべり等の中で、その人らしい穏やかな表情や暮らしにつなげています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に、その人らしい服装に心掛けると共に、行事の場面や外出の際などにも気配りの支援行っています。又、家族の了解の下、ほぼ全員が、移動美容(毎月の来所あり)利用中。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員見守りの中、それぞれの出来る事で、一緒に食材の買出しや、食事の準備(テーブル拭き、おしぼりやお箸配り、下膳)等、率先して係われるよう、こまめな声掛けでの支援に努めています。	献立は、栄養バランスを考慮しながらも利用者との会話の中からその時々で決めることもあり、それぞれのユニットでオリジナリティーを出している。食事形態も利用者に合わせて、きざみやミキサー等柔軟に対応しながら誤嚥防止に配慮している。	利用者の重度化に伴い見守りや介助の必要性、職員の休憩時間の確保など懸念されるが、段階的に利用者と職員が同じテーブルを囲み、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事することに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方に関しては、主治医の指示の下(1日・・・1100キロカロリー厳守)又、食事の摂取量や水分確保に関しては、排泄記録も確認しつつの提供を。(嚥下困難な方には、トロミアップ使用中)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の服薬終了後、洗面所への声掛けと共に誘導行い、本人の能力にあわせ、見守り、半介助、又は全介助での支援行っている。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方の使用トイレ入り口には、大きく”お手洗い”等分りやすい明記を。又、定時、随時でのこまめな排泄介助と記録の継続にて排泄パターンを把握の中、気持ちよく過ごして頂いている。	排泄の記録が詳細に記載され、排泄パターンに応じた個別の支援をしている。一人ひとりのサインを把握し、自尊心に配慮しながらさりげない誘導を心がけ、日中のリハビリパンツを減らしたり、夜間の声かけ誘導により排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録の継続と共に、排便に関しては”赤”での記入とし、一目でわかるようにしている。又、便秘予防として、野菜や乳製品と共に、食後やおやつの際も、多めの水分補給にて便秘解消につなげています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在では、「お風呂が沸きましたよ～、どうぞ」の声掛けに嬉しそうな表情で脱衣所へ。又、リラックスにつながるよう、入浴剤や季節によっては、菖蒲湯やゆず湯の提供も行い楽しんで頂いている。	基本的には曜日や時間帯は決まっているが、利用者のその時々希望を大切に支援しており、菖蒲湯やゆず湯など季節を感じながら入浴できるように工夫している。入浴に対して負担感や抵抗感を感じている方には、声かけの工夫やタイミングに合わせた支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出勤時には、必ず日誌を見て、体調や排泄等の把握を。又、足の冷え訴える方には湯たんぽを、夜中に喉の渇きあれば、ホットミルク等を提供しつつ安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬に関し理解する中、日付と朝食後薬は(赤)、昼食後(黄)、夕食後(青)等色分けし、日々の服薬管理に努めている。又、薬や量に変更あった際にも、個人ケースに記録し全員で把握に心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時、家族より、生活歴や得意な事、興味のあった事などの情報を得、又、一人ひとりの能力も把握しつつ、その人なりの役割に対しても、必ず「有難うございます」等の言葉添えての支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に、2時間程の中で、5～6人づつでの外出実施中。初詣、近くの羽田沼にて飛来中の白鳥見学、紫陽花見学、又、天気が良ければ、いつでも那須方面等へのドライブも決行し、車中の会話も楽しめるよう心掛けています。	日常的に近隣のスーパー等買い物に出かけており、誕生日の利用者とは外食等にも出かけている。年間を通して季節にあった観光スポットへドライブしたり、戸外に出ない時でも敷地内の遊歩道を散歩するなど、利用者が外出により生き生きと過ごせるような工夫をしている。	

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より”小遣い”としホームで預かり、買い物ツアーの際など、職員見守りの中、本人自ら品物を選んだり、支払って頂く場面づくりや、又、3ヶ月に1度の散髪時の支払いもやっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のように、姉からの電話を楽しみにされている方、又、県外在住の子供さんから届くハガキや手紙を何度も読み返し、嬉しそうに話して下さる方もおられるなど、家族との絆を大事にした中での支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には、敷地内の季節の草花を入居者様との散歩で摘んで来て一緒に飾ったり、手づくりの作品(ぬり絵や陶芸によるそれぞれの手形等々)を展示しています。又、間接照明使用にて、まぶし過ぎぬ空間となっている。	落ち着いた間接照明のリビングは、季節を取り入れた植物や利用者の作品が飾られ、温かみのある場となっている。共用の空間はどこも温度調節され、清潔を保持しながら居心地のよい場所を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ゆったりとしたベランダにはベンチもあり、日向ぼっこもできます。又、事務所内の来客用の椅子がお気に入りの入居者様が多く、時には5人位集まり、楽しいおしゃべりタイムとなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、家族に、本人の慣れ親しんだ物品等の必要性を伝えた上で、ベッドやタンス、又、ご主人の”遺影”や”お位牌”など持参され、日々目にすることで、穏やかな生活につながっている方もいらっしゃいます。	使い慣れた家具や写真、思い出の品々に囲まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮したしつらえになっている。利用者が自分の家のように居心地よく暮らせるよう生活感を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を把握、安心、安全も考慮したバリアフリーの中、廊下、フロア、トイレ内等への手すり設置にて、転倒防止に努めている。又、フロアスペースも広く、車椅子でも安全な移動可となっている。		